

I 実践

1 研究主題

互いに認め合い、誰に対しても思いやり心を持ち、助け合うことのできる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は、「心豊かで健やかで、たくましく行動できる児童の育成

ーかしこく やさしく たくましくー」を教育目標としている。

本校の児童の多くは、明るく元気で素直である。しかしその反面、一部の児童は自己中心的な行動や相手を思いやる気持ちに欠ける言動をとり、周囲とトラブルになることも少なくない。また、家庭環境によって、基本的生活習慣の形成や道徳性の個人差も見られる。

そこで、学校教育活動全体を通して、一人一人が相手の立場を思いやれる心や助け合う心の育成を図り、『自分の大切さ・他の人の大切さを互いに認めること』ができる児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 児童が安心できる居場所となる学級づくり

イ 人権に親しむことのできる充実した環境づくり

ウ 豊かな体験活動

2 実践内容

(1) 児童が安心できる居場所となる学級づくり

ア 笑顔であいさつ、朝の会・帰りの会

朝と帰りのあいさつでは、一人一人と笑顔で元気よくあいさつを交わしている。あいさつのあとに続く会話から、児童の様子や実態の把握に努めている。

イ お誕生会

「おめでとう会」を給食時に行っている。ハッピーバースデーを歌い、牛乳で乾杯をする。一年に一度の特別な日を友達にも祝ってもらえるとみんな嬉しそうにしている。祝福してくれる友達や家族への感謝の気持ちを育てている。

ウ 連絡帳の活用「ひとこと日記」

連絡帳を使って、その日あった出来事で教師に伝えたいことを書く「ひとこと日記」を行っている。教師もその日記に対して一言を書き込むことで、個人差はあるが、児童理解や児童との関係の深化に役立っている。連絡帳なので、保護者も読むことができ、感想も寄せられている。

(2) 人権に親しむことのできる充実した環境づくり

ア 人権教育ビデオを活用しての授業（人権メッセージ作成）

人権教育に関するビデオを活用し、人権メッセージを作成したり道徳の授業を行ったりしている。作成した人権メッセージは、人権啓発推進センター主催の「人権メッセージ」に応募するとともに、各教室の「道徳・人権コーナー」に掲示することで、啓発を図っている。

イ 人権コーナーの設置

全児童の目にふれる機会の多い昇降口の横通路に人権コーナーを設置している。人権メッセージの優秀作品やポスターを掲示したり、心に響く詩を掲示したりすることで、人権への啓発の場としている。ポスターや詩は2ヶ月に一度変えて、児童が「次は何だろう」と意識して人権コーナーを見るよう、工夫している。



人権コーナー（昇降口横）



道徳・人権コーナー（学級）

(3) 豊かな体験活動

ア 異学年集団との交流活動

兄弟学級（1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生）で、交流給食を実施した。ランチルームで児童相互の協力で食事環境を整え、会食することにより、食事を通じたマナーや人間関係調整力を育て、交流を深めている。

異学年集団との交流活動を通して、上級生は下級生の面倒をみることで思いやりの心が育ち、下級生は、上級生に親しみをもって接することができた。また、学年を越え誰とでも仲良く活動することの楽しさを学ぶことができた。

イ 地域高齢者との交流

4年生児童が、地域の高齢者とふれあい会食会を実施した。坂本地区に住む一人暮らしの高齢者の方々を招いて、音楽やダンスを発表したり、一緒にゲームや会食をしたりと楽しく交流することができた。

地域の敬老会に参加し、長寿を祝って、5・6年生の合奏団の児童が器楽合奏を披露し、1年生児童が作文発表をした。6年生は米寿のお祝いメッセージを心を込めて書いた。

ウ 手話体験

4年生が、ゲストティーチャーを招いて、手話について学ぶ貴重な体験をした。総合的な学習の時間における体験活動を通して、障害のある人の気持ちになって考えられるようになってきている。また、共に生きていくことの大切さにも気づくことができた。

エ 環境ボランティア・福祉のつどいボランティア

全学年で、学校内の除草やゴミ拾いなどの清掃を実施した。「自分たちの学校を大切に作る心」を育てるとともに、「奉仕の心」を育てる活動を行っている。また、地域の催し「福祉のつどい」では、児童が模擬店などのボランティアを行った。元気のよい呼びかけが、参加した地域の方から好評だった。



4年生 手話体験



福祉のつどいボランティア

3 成果

- ・ 「人権メッセージ」の取り組みでは、人権に関するビデオ等を見て人権について考えた。そのため、児童一人一人が、人権について「友達や家族のことを考えて、大切にしたい」「自分が今できることをがんばろう」など、人権を身近なこととして考えることができた。
- ・ いろいろな行事やいろいろな人と関わ体験を通して、優しい気持ちが育ってきている。また、友達との関わりの中で、学習・生活全般を通して、励まし合ったりなぐさめあったりしながら、自分や友達の良さを発見し、誰とでも仲良くしようとする姿勢が育ってきた。

II 今後の課題

子どもたちの人権に対しての意識を高めるために、まず教師が積極的に人権に関する研修会に参加したり、校内で研修会を開いたりして、人権尊重の意識の醸成に努めていく必要がある。併せて、保護者への啓発を図り、各家庭でも人権に対する意識を深めていくことが大切である。そして、日々の学校生活の中で、身近にとらえられる例を挙げて人としての生き方や人への接し方のよさを求めていけるようにしていきたい。